

## 生物多様性条約事務局に対するポスト 2020 目標に関する意見書(日本語版)

生物多様性わかものネットワーク

### ★2050 年ビジョンへのロードマップはつくるべき

#### 【2030 年ミッション】

- ・先進国の判断基準に生物多様性を組み込む
- ・自然地域について、保全/保護箇所・利用箇所のゾーニングを計画する
- ・各分野（紙・木材・労働・・・）における認証マークを公平に評価し、作成する機関を国連が任命する。作成する機関は NPO 等金銭的な関係をもたない団体とする。
- ・現状として、日本国内のユースの「愛知目標」の認知度が低く、環境関連活動への参加率も低い。そのため、ポスト愛知目標では、各国から多くのユースが条約のプロセスに参画できる仕組みや能力養成、資金援助をより充実させ、ポスト愛知目標の中でも明確化させる

#### 【2050 年ビジョン】

- ・世界中の国・産業が、生物多様性を判断項目として組み込む
- ・保全/保護箇所・利用箇所のゾーニングが運用されている
- ・全ての人が生産者と消費者のバックグラウンドを理解し、本能的に生物多様性が大事であると理解することで持続的な活動をできるようにする
- ・2050 年ビジョンを達成することで QOL が向上する、など 2050 年ビジョンの達成が世界中のすべての人たちにとってどのような意味を持つものなのか認識できるようにする

#### 【2030 年に目標を達成するためのツールについて】

- ・特に教育・食品・住宅・工業・健康セクターに対して国がトップダウンで仕組みを変える
- 教育：生物多様性の問題に関する授業を行うよう、国が教師の支援をする
- 食品：認証マークを組み込むことで上がる金額分を消費税等で減税する措置を組み込む
- 住宅・工業：トレーサビリティの開示を組み込む
- 健康：環境や生物多様性保全に積極的に取り組むもしくはポスト愛知目標達成のための活動をしている人の保険料や医療費を安くする(または無償化する)仕組みを提供する

#### 【ポスト愛知目標に含めてほしいもの】

- ・ユース参画の重要性の強調
- ・生物多様性と関連する新しい技術における法と知識の重要性
- ・SDGs との連携
- ・人の健康と防災に関連する目標を含める

